

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

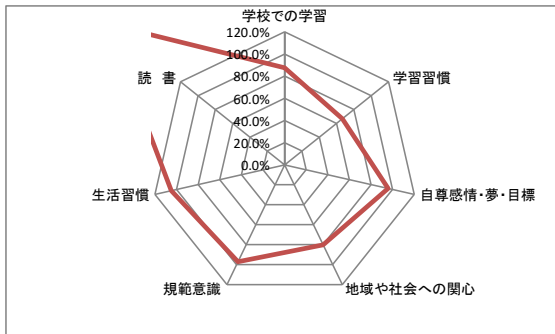
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習領域「読むこと」や評価の観点「読む能力」について、課題がある。「伝統的な言語文化に関すること」「言語についての知識・理解・技能」については、全国と同程度である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく読む問題や質問の意図を捉える問題	
	努力が必要な問題	文章に表れているものの見方や考え方を捉えたり、自分の考えを表現したりする問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	学習領域の「図形」や「数学的な見方や考え方」について、課題がある。また、選択式や短答式の問題に対し、記述式の問題を苦手としている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	扇形のこの長さを求める問題や資料を読み取る問題	
	努力が必要な問題	数学的に説明したり、表現したりする問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「毎日同じ時刻に寝る・起きる」「朝食を毎日食べる」など、基本的な生活習慣の定着について、全国を上回っている。 ・読書をする割合が大幅に増加し、全国を大幅に上回っている。 ・「家庭での学習時間」や「自分で計画を立てて勉強する」など、学習習慣の定着について、全国を大幅に下回っている。 ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」など、自尊感情を持つ割合が全国を下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・自分の思考を深め広げたり、考えをまとめ発表したりする力を育てるために、「考えを書く活動」「話し合う活動」「考えを表現する活動」を授業展開に必ず位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・計画的な学習が習慣になるよう、まず、家庭との連携により、定期考査前の学習計画づくりの指導を強化する。また、中・長期的な見通しをもち、夢や目標を見据えて努力できるよう「キャリア教育」を充実させる。